

第7回 TOMO-KEN 開催

～友に学ぶ・共に学ぶ～

10月10日(土)、11日(日)の2日間にわたりTOMO-KEN(青年教育実践交流集会)が日本教育会館にて開催されました。

TOMO-KENでは、全国の青年教職員が集い「子どもにどうかかわっているのか」「子どもをどう見つめているのか」「そのためにどんなとりくみをしているのか」について実践等を持ち寄り、解決にむけた議論を行います。今回は全国から230名もの先生方が参加し、福井県からは実行委員、司会者を含めて5名が参加しました。



この集会では20のテーマ別分科会が設けられました。日頃の実践について青年同士で議論を行い、成果だけでなく悩みも交流できる場であり、大変有意義な時間です。また、校種、職種をこえた情報交換をすることができる場です。

来年度も開催予定ですので、青年部の教職員の参加をお待ちしています。

<参加者の感想>

今回TOMO-KENに初めて参加して、全国の青年部の先生方と交流を深める貴重な経験をすることができました。「子どもの学び」に関する分科会に参加し、各都道府県の先生方の多様な実践や現場での悩みを共有することができ、今後の授業改善や学級経営に大きく役立つアイデアを吸収することができました。また、自分自身も実践を報告する中で実践が新しい視点で意味づけられました。さらに、各都道府県の学校の特徴や現状を知る中で、福井県の教育の「きめ細かさ」を実感することができました。

TOMO-KENを通じて学んだことを自分の中にとどめておくのではなく、学校や地区の先生方と共有し、議論していきたいと思えます。

TOMO-KENに参加させて頂き、ありがとうございました。

他の県や校種、教科の先生方とお会いして話をする中で、本当にたくさんのことを学ばせていただきました。

今回「特別な支援を必要としている子どもへの対応」というテーマの分科会に参加し、気がかりな生徒の普段の様子や、自分が抱えている問題意識、悩みなどを率直に語らせていただきました。それに対して、他の先生方からご質問やアドバイス等をいただき、自分が「悩み」として感じていたことは、実は前進のためのステップともなり得ることに気づきました。また、特別支援学校の先生方のお話を伺い、支援の根本は普通学校でも特別支援学校でも変わりがないことに改めて気づきました。「全ては子どもたちのために」という意識を常に忘れず、よりよい支援について考えていきたいと思えます。

貴重な機会をいただきまして、本当にありがとうございました。